菰、菰竹なり、『爾雅』之を菰菩と謂ふ、詩に稱する所、菉竹簀の如し、言ふこころは菉と菰竹と地に敷けば牀簀に似たればなり。

五十二、荼

荼、苦菜なり、或は之を游冬と謂ふ。

五十三、薺

薺、冬生じて夏死る、「月令」所謂靡草、薺其の屬なり。

五十四、駒

駒、馬二歳なるを駒と曰ふ。

五十五、鳧

鳧、『爾雅』之を鷖と謂ふ、方言に云ふ野鳧其の小にして好んで水中に沒する者、南楚の外、之を鷖鷗と謂ふ、大なる者之を鵠鷖と謂ふ。

五十六、蟬

蟬、詩に之を蜩と謂ふ、小にして文ある者之を蟌と謂ふ、『夏小正』、之を札と謂ふ。『爾雅』之を蜻蜻と謂ふ、五采具る、之を良と謂ふ。蜩小にして善く鳴く者、『夏小正』、之を唐調と謂ふ。

亦之を匽と謂ふ。大雅言ふ所蜩の如く、螗の如くなる者なり、寒蜩之を蜺と謂ふ。鄭康成注考工記云ふ旁鳴蜩は蜺の屬と。

戴震字は東原、休寧の人、乾隆壬午の舉人、四庫館纂修官、少從江愼修に薦充せらる。禮經に遊び、制度名物及び推步天象皆洞徹す、既に乃ち漢儒傳注及び說文の諸書を研精し、聲音文字より以て訓詁を求め、訓詁に由て以て義理を尋ね、實事是れを求め、一家を主とせず、乙未、特に翰林院庶吉士を授けらる、著はす所、毛鄭詩考、正某溪詩補注、尙書義考、儀禮考、正考工記圖、爾雅文字考、大學補注、中庸補注、孟子字義疏證、續天文略、水地記方言疏證、原善、原象、歷問古曆考、勾股割圜記策筭、聲韻考、聲類表、屈原賦注、東原文集等の書あり、校する所、大戴禮記、水經注尤も精核なり。

附録終

大正十一年十二月七日印刷
大正十一年十二月十日發行

國譯漢文大成　文學部　第一卷
【非賣品】

編輯兼發行者　國民文庫刊行會
東京市神田區小川町一番地

右代表者　鶴田久作
東京市本郷區西片町十番地

印刷者　土谷清隆
東京市小石川區久堅町百八番地

印刷所　株式會社　博文館印刷所
東京市小石川區久堅町百八番地

著作權所有

發行所　電話神田三二六〇番
振替東京一八五七二番
國民文庫刊行會

歐山冑氏藏書